

国際ロータリー第2610地区

第61年度 D.2610 ROTARY CLUB OF KOMATSU



# 小松ロータリークラブ会報



2015～2016年度 国際ロータリーテーマ

世界へのプレゼントになろう  
Be a gift to the world

- ◆会 長：上杉 豊明
- ◆会長エレクト：杉本 雅規
- ◆幹 事：徳田八十吉
- ◆副 会 長：橋浦 隆

事務局 〒923-0957 石川県小松市本折町33 アパホテル(小松グランド)2F TEL.0761-24-1340・FAX.0761-24-4700  
E-mail: office@komatsu-rc.jp URL: http://komatsu-rc.jp/



## 石川第二分区都市連合会 I M

3月6日(日)  
於：山代温泉ゆのくに天祥

### 「山水画」はこうして誕生した！(続き)

小松ロータリークラブ  
2015～2016年度 会長 上杉 豊明

このように相手の弱みに付け込め、というのが彼ら中国人の行動原理です。そして、そのような行動原理を「バルネラビリティの原理」といいます。バルネラビリティとは、弱点、あるいは傷・非難を受けやすい、という意味です。この原理からすれば、他人に対する親切心や思いやりの心、人を疑わない善良性なども、つまり弱点になる。ということです。第一に弱点のある人間は中国社会では尊敬されません。たとえば酒宴の席では、マイペースで飲んだり、酔っぱらったりしてはいけませんし、まじめな話は厳禁です。常に緊張を崩さずに毅然とした態度を維持する人間が、中国社会では最も理想的人間になるのです。

もう一つ中国人の行動原理をあらわす譬喩(たとえ)があります。「指桑罵槐」(しそうばかい)という言葉をご存知でしょうか。「桑を指して槐を罵る」と読みますが、これに似た言葉に「鶏を指して犬を罵る」という言いまわしもあります。本当は桑を罵りたいのですが、それとは別の槐(街路樹や庭木に用いられる喬木)を罵る、あるいは犬を罵ってはいるが、実のところ鶏を罵りたいという意味です。つまり、本当に攻撃したい対象とは全く別のものを攻撃する。というのが「指桑罵槐」の意味になります。相手を攻撃、非難しているように見せて、実際には別の人を批判、攻撃していることをあらわしています。

それでは何故、中国人は別の方を向いて罵るのでしょうか。それは彼らのいづく「バルネラビリティの原理」が基因となっているからです。中国人は極端に他人に目を恐れます。自分の内面を他人に知られることを極度に嫌うのです。つまり、相手に対して敵愾心をいだいていることを衆知せられることを恐れるからです。周囲に自分の本当の心身の姿が露呈することは最大の弱点になり、そうなればもはや中国社会の中で生き残っていくことは難しくなります。従って、口にした言葉とその本心は一致する必要はない、というちぐはぐな社会規範が出来上がってしまったといえるかも知れません。「指桑罵槐」とはまさに中国数千年の歴史の中で、彼ら中国人が身につけた行動原理であり、同時にそれは彼らの「心やすまらぬ日々」を象徴する言葉でもあったのです。